

南高梅の特別栽培(青果・梅干し)

和歌山特別栽培農産物
推進協議会 認証

うめの品質、安全、環境に こだわって作りました

南高梅の品質、安全安心な梅、環境にやさしい梅づくりに取り組み28年目を迎えました。
これからも、まじめに梅づくりにこだわります。



栽培方法・特徴

収穫：熟度を高め、内容成分を高めました

農薬：県慣行の50%以上削減

肥料：肥料・土壌改良材は無化学肥料紀南オール有機配合等(100%有機質配合肥料使用)

除草：雑草は刈り取り土にもどしています

※ 農薬を減らしているため、小さい傷があります

農林水産省新ガイドラインによる表示

特別栽培農産物：南高梅

化学肥料：栽培期間中不使用

栽培責任者：JAわかやま 紀南地域本部 営農部 所在地・連絡先は下記に記載

確認責任者：廣畑勝紀、丸山清司 所在地・連絡先は下記に記載



農林水産省新ガイドラインによる表示

特別栽培農産物

節減対象農薬	和歌山県慣行栽培比 5 割減
化学肥料(窒素成分)	和歌山県慣行栽培比10割減
栽培責任者	JAわかやま 紀南地域本部 加工梅特別栽培グループ 会長 那須康夫
住 所	和歌山県田辺市高雄三丁目 22-19
連 絡 先	TEL 0739-25-5720
確認責任者	廣畑勝紀、丸山清司
住 所	和歌山県田辺市高雄三丁目 22-19
連 絡 先	TEL 0739-25-5720

節減対象農薬の使用状況

使用資材名	用途	使用回数
銅剤	殺菌	-
アセタミプリド水溶剤	殺虫	1 回
水和硫黄剤	殺菌	-
ジチアノン	殺菌	1 回
キャプタン水和剤	殺菌	
オキシテトラサイクリン水和剤	殺菌	-
シナンセルア剤	その他	-
キャプタン水和剤	殺菌	1 回
ジフェノコナゾール水和剤	殺菌	2 回
ベノミル水和剤	殺菌	1 回
フルベンジアミド水和剤	殺虫	1 回
炭酸水素ナトリウム	殺菌	-

節減対象肥料・土壌改良剤の使用状況

使用資材名	成分(窒素-リン酸-加里)	化学窒素使用量
樹皮堆肥	—————	0
貝殻	—————	0
有機質配合肥料		
こだわりオール有機配合 724	7-2-4	0
紀南オール有機ペレット	6-2-3	0
紀南オール有機入り 624	6-2-4	0

バイオ有機S	7.2-4.0-2.5	0
菜種粕	5.3-2.3-1	0
認証機関認証番号	和歌山県特別栽培農産物推進協議会、598-1～598-10	
生産者名5名	廣畑佳和、桐本靖也、那須康夫、向日雅和、橘真吾	
農林水産省新ガイドラインによる表示		
特別栽培農産物		
節減対象農薬	和歌山県慣行栽培比5割減	
化学肥料(窒素成分)	和歌山県慣行栽培比10割減	
栽培責任者	JAわかやま 紀南地域本部 梅特別栽培研究会 坂本 増巳	
住 所	和歌山県田辺市高雄三丁目 22-19	
連 絡 先	TEL 0739-25-5720	
確認責任者	廣畑勝紀、丸山清司	
住 所	和歌山県田辺市高雄三丁目 22-19	
連 絡 先	TEL 0739-25-5720	
節減対象農薬の使用状況		
使用資材名	用途	使用回数
石灰硫黄合剤	殺菌	-
銅剤	殺菌	-
ジチアノン水和剤	殺菌	1回
アセタプリミド水溶剤	殺虫	1回
水和硫黄剤	殺菌	-
ジフェノコナゾール水和剤	殺菌	1回
オキシテトラサイクリン水和剤	殺菌	-
シナンセルア剤	その他	-
ベノミル水和剤	殺菌	1回
スピロテトラマト水和剤	殺虫	1回
ジノテフラン水溶剤	殺虫	
フルベンジアミド水和剤	殺虫	1回
炭酸水素ナトリウム	殺菌	-
節減対象肥料・土壌改良剤の使用状況		
使用資材名	成分(窒素-リン酸-加里)	化学窒素使用量
樹皮堆肥	—————	0

貝殻	_____	0
有機質配合肥料		
こだわりオール有機配合 724	7-2-4	0
紀南オール有機ペレット	6-2-3	0
紀南オール有機入り 624	6-2-4	0
バイオノ有機 S	7.2-4.0-2.5	0
菜種粕	5.3-2.3-1	0
認証機関、認証番号	和歌山特別栽培農産物推進協議会、597-1~597-90	
生産者 35 名	田中武志、中田善久、那須明彦、丸山照代、新澤 亘、 冬木益夫、法忍岳史、澁谷文彦、輪玉さやか、池永 拓弥、 石神 泰、平山剛、坂本増巳、森 司、橘 真吾、 原 拓生、田中圭介、野久保太一郎、那須敏夫、南 廣司、 芝崎誠一、宇井 健、市橋宗行、富家 力、井上義明、平岩義浩、 前田光有希、峰 定司、森 佳弘、森 敦孝、稗田和春、 石垣玲子、岡本智郁、中道 平、森 有輝	

JAわかやま 紀南地域本部 梅特別栽培研究会

令和 7 年産 梅特別栽培基準

目的・目標

減農薬無化学肥料栽培、特別栽培認証適合を内容として、青果・原料用等への販売拡大を目標に進める。

実施方法

実証圃

黒星病・かいよう病の出にくい5a以上の園で、JA特別栽培暦にそって栽培する。

病虫害防除

薬剤散布延べ6回を基本とする。使用農薬は、栽培暦準拠とする。

スカシバコンL(フェロモン剤)によるコスカシバ防除を実施する。20年基準により、有機JAS適合のボルドー剤、イオウ剤等は、防除回数にカウントしない。(園地の条件により、基準防除例からの防除回数の削減に挑戦する)剪定を行い、風通しを好くすることで、かいよう病・黒星病の発病を減らす。

除草剤

除草剤は、年間を通して使用しない。

その他

減農薬を促進・補完する天然系その他資材は、営農指導員と相談して取り入れ、結果を報告・紹介する。

肥料

年間を通じ、有機率 100%の肥料を使用する。

- ・施肥・肥効を抑制し、かきよう病・黒星病の発病を減らす。
- ・土壌分析診断に基づいた土壌改良を実施する。(9月)加里は草木加里を使用。

収穫

収穫物は青果収穫で、指定した熟度(80%)とする。

記録・報告 施肥、防除、その他管理、収穫の記録を行ない、収穫前に報告する。

特裁認証 特別栽培認証を取得の栽培内容とする。

JA特別栽培暦(散布量は、400~700 ㍓/10a とし丁寧に散布)肥培管理(樹勢・園の状況により加減する)

防除時期	病害虫	防除薬剤	施肥時期	施用量
12/	縮葉病	石灰硫黄合剤 8倍	11/	土壌改良 バーク堆肥 2000 kg セルカ 140 kg
3/上中旬	かきよう病多発園	ICボルドー66D 50倍		
3/下旬~ 4/月上旬	黒星病	デランフロアブル 2000 倍		
3/下旬~ 4/月上旬	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 4000 倍		
4/上中旬	黒星病	イオウフロアブル 500 倍		
4/中旬	コスカシバ	スカシバコンL 50~100 本/10a	10/下旬	オール有機配合 80 kg
4/中旬	黒星病	ベンレート水和剤 3000 倍	3/月上旬	オール有機配合 80 kg
4/中旬	かきよう病	マイコシールド 1500 倍	4/月上旬	オール有機配合 100 kg

5/上旬	黒星病	スコア顆粒水和剤 3000 倍	7/上旬	オール有機配合 140 kg
5/上旬	カイガラムシ類 カメムシ類	モベントフロアブル 2000 倍 又は、スタークル顆粒水溶剤 2000 倍 いずれかを散布	8/下旬	菜種粕 200 kg
5/上旬	ケムシ類	フェニックスフロアブル 4000 倍		
4/上旬～ 5/中旬	すす斑病	重曹 500 倍		